
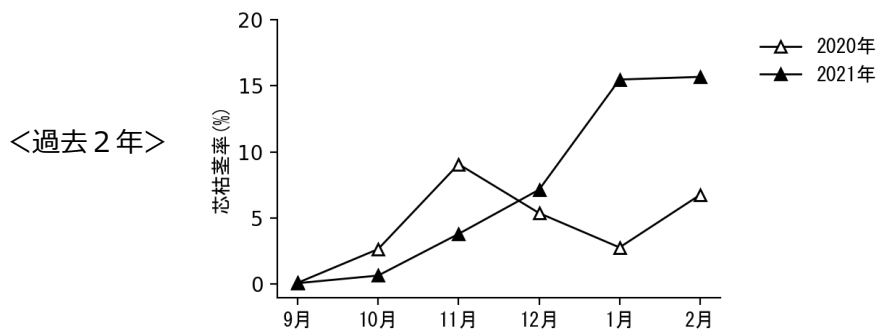
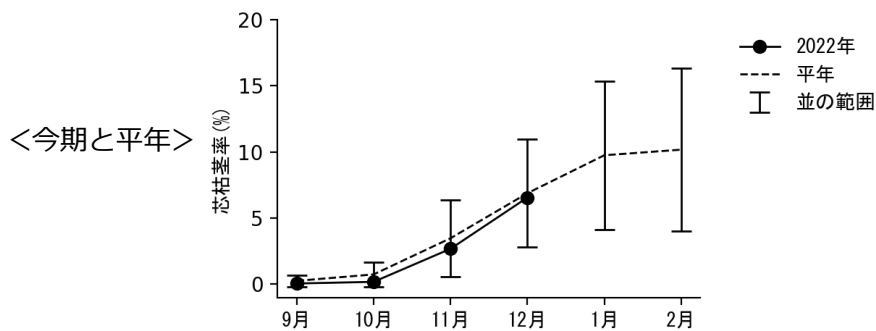


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	12 月からの増減傾向	↗		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


芯枯茎率の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、優先種はカンシャシンクイハマキであった。
- ・ 発生ほ場率95.0% (平年 : 93.0%)

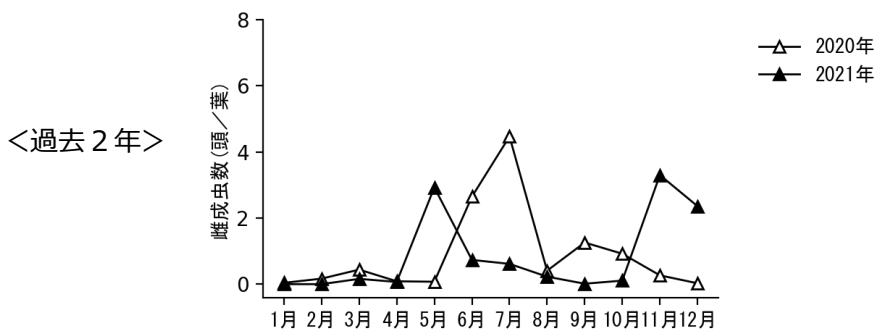
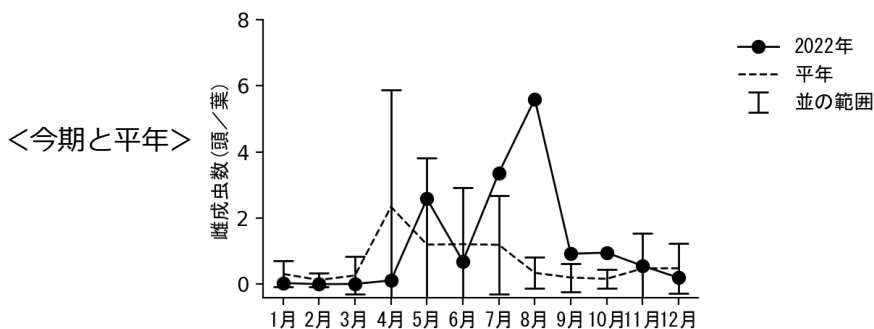
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類			 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率60.0%（平年：26.0%）

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

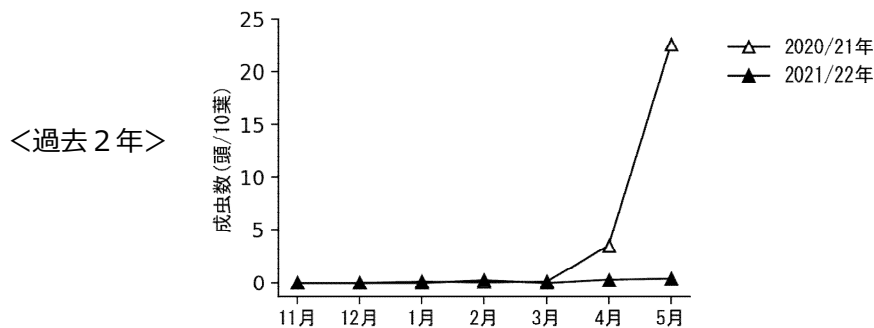
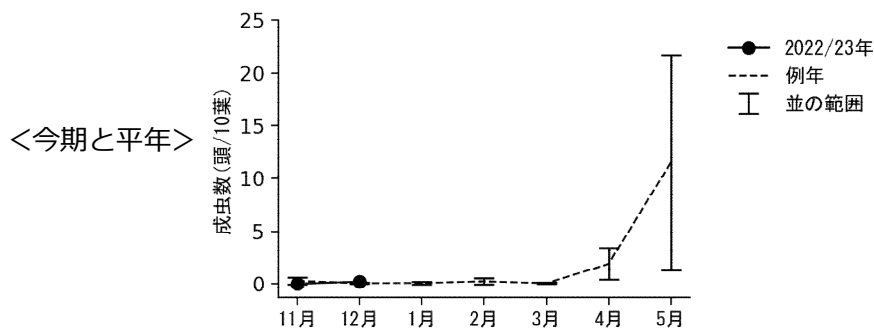


マンゴーツメハダニ

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
		1 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		例年の発生量の推移 (→)	

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率40.0% (例年：20.0%)

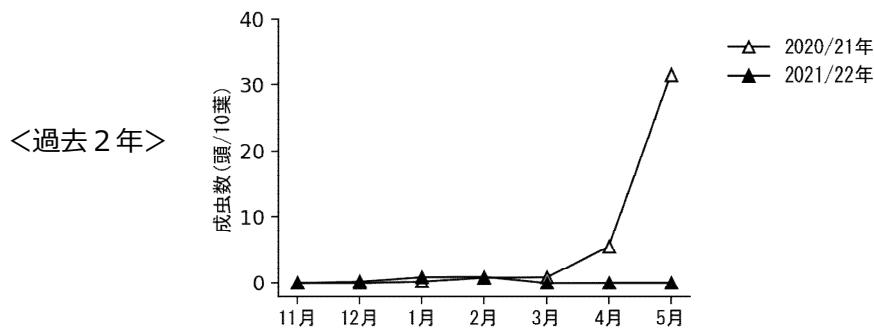
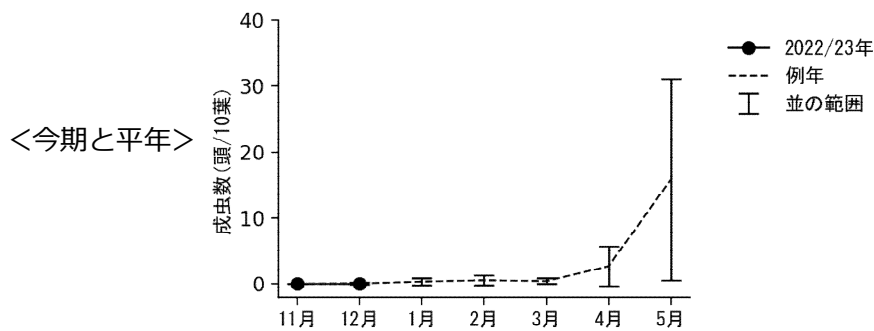
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率0% (例年 : 6.7%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

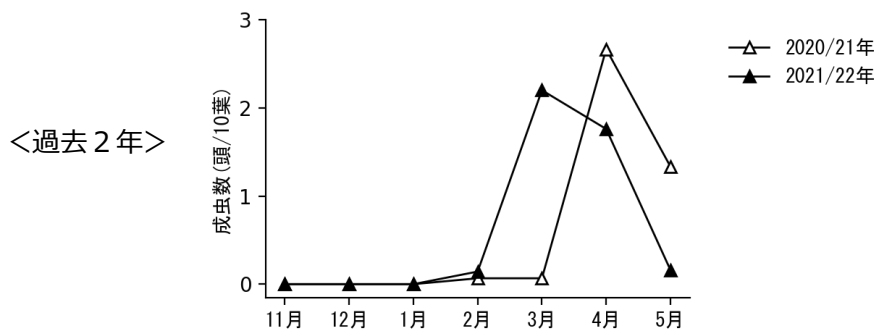
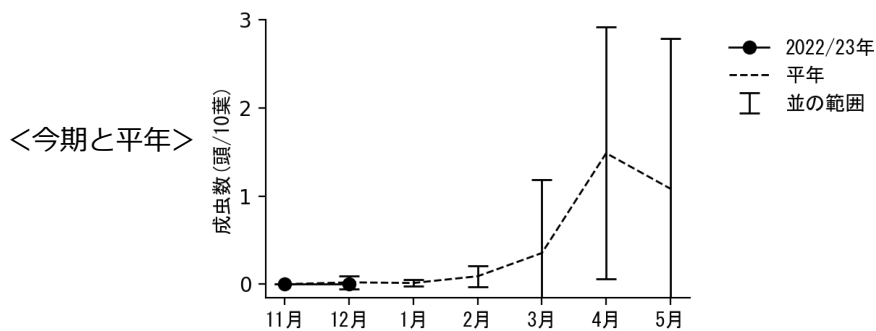


幼虫

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率0% (平年 : 2.0%)

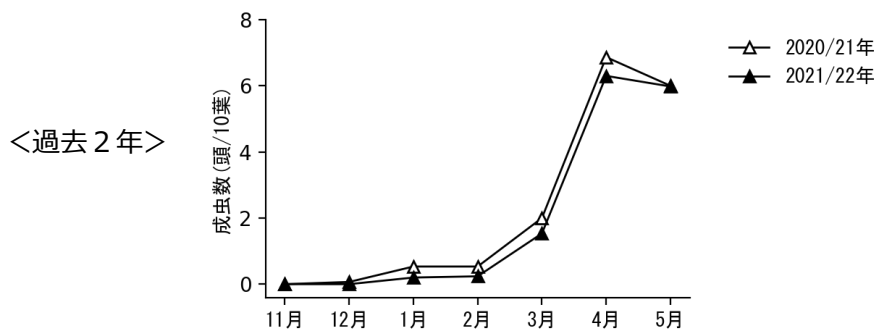
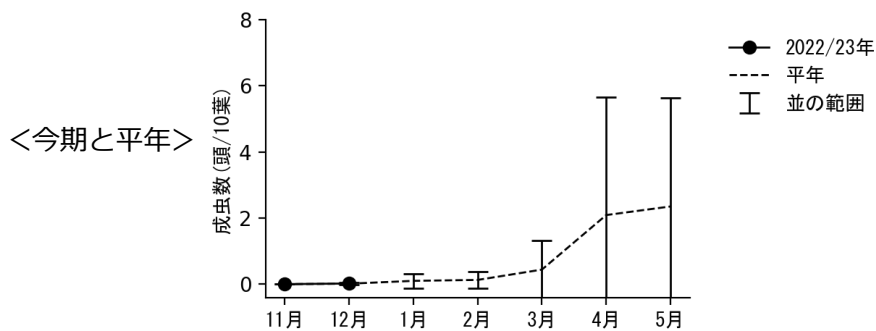
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	① タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率20.0% (平年：4.1%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

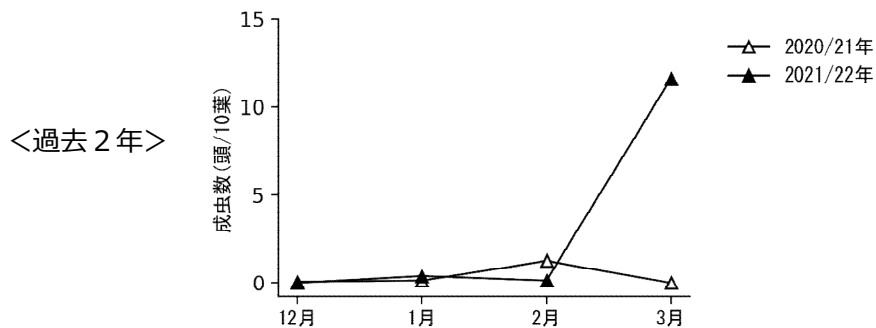
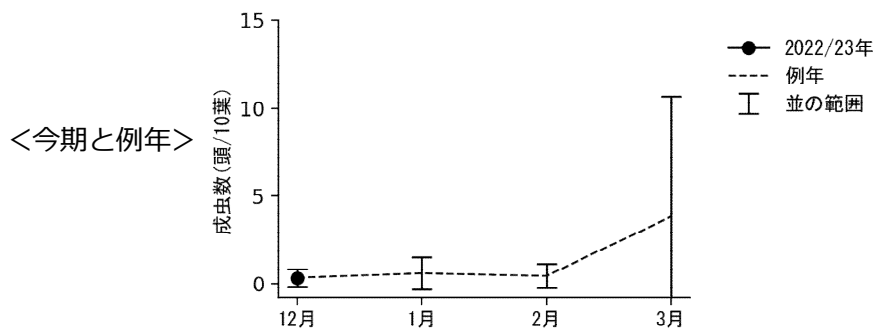


幼虫

作物	さやいんげん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (→)	

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率20.0% (例年 : 20.0%)

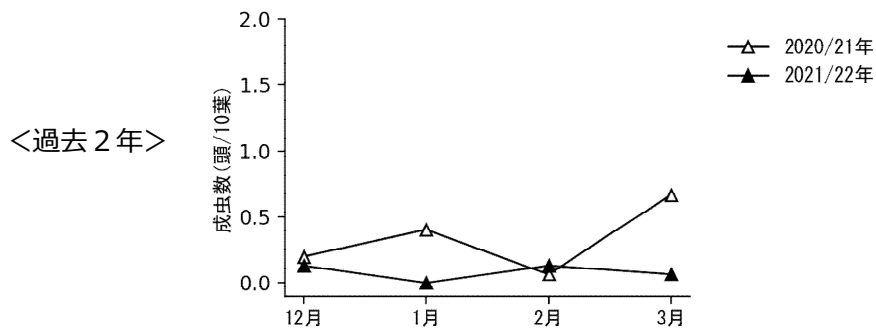
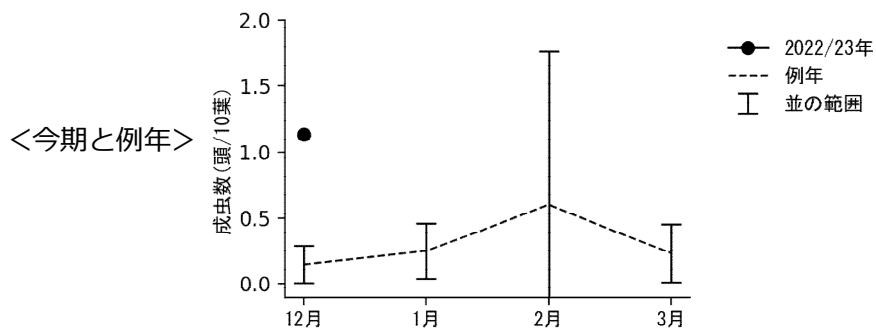
防除のポイント

- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	さやいんげん(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	② タバココナジラミ			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	12 月からの増減傾向	↗		
	1 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率20.0% (例年 : 30.0%)、一部施設で多発

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。



幼虫